

# エチオピアの農村女性への衛生教育。 支援と視察を通して私が見たもの

アジア医師連絡協議会委員 藤井美紀子

ティグレイ州で行われている自宅出産とその仕組みを見る中で、伝統的な医療の価値への考察を深めた藤井さん。  
 「たとえ短期間でも自分にあったスタイルで海外体験をしていくことをお勧めします」と語る理由をご紹介します。

## 農村女性に衛生教育の ワークシヨップを

「エチオピア」と聞けば、ほとんどの人がすぐさま「飢餓」を思い浮かべるほど、八〇年代の大飢饉は有名です。しかし、その「貧しさのみ」という定着したイメージは、エチオピアの歴史と、そこに住む人々の精神を知ったならば、あまりにも不釣り合いなものだと感じられることでしょう。

エチオピアは、アフリカの角と呼ばれる大陸上端部に位置するアフリカ最古の国です。この国の皇帝は旧約聖書に記される、かのソロモン王とシバ女王の子孫だと伝えられ、これは今日でもエチオピアの人々の誇りです。しかしその後、度重なる内戦、一時期の社会主義国経験、干ばつなどにより、現在経済的には、世界のワーストクラスになってしまっています。

今回私が赴いたティグレイ州は、旧ソ連が崩壊するまで政権の座を占めていたアムハラ族と、長い年月兵糧攻めにあっていたティグ

レイ族が内戦状態にありました。しかし社会主義政権が倒れると、ティグレイ族が政権を握り、現在に至っています。

現在も民族間の対立はくすぶり続けていますが、人々は自分たちの農地に戻り、一応の平静を取り戻しつつあります。

私は九二年九月から一月までこのティグレイ州都メケレで行われる新しい女性組織「ティグレイ民主女性協会」の保健衛生ワークシヨップの支援と視察のために赴任しました。メケレは標高二〇〇メートル程のところ、テブルマウンテンのように見えるハゲ山に囲まれた、ロバや馬、ときにはラクダが行き来する石造りの小さな街です。

街のテープ屋さんからはアメリカのロックとともに、内戦中の兵士の歌が流れ、まだレニン、スターリンの絵が建物の上に残っているのを見たりして、古いものと新しいものが混ざり合いながら時の流れている、過渡期の不思議な魅力があります。

この街に産声をあげたティグレイ民主女性協会は、まさにこのメケレの状態に似たもの

があります。行ってみるとまだ事務所の机イスの類を揃えることに苦心してる状態の真っ只中でした。当初の予定では、一〇月中旬に近隣の農村から女性たち約七〇名を招き、衛生教育のワークシヨップを開催したいという話だったので、代表者の女性がティグレイ州議員として立候補するなどで忙しく、予定が延びているようでした。

そのようなわけでREST（ティグレイ州最大のNGO団体）がこの団体をしっかりサポートするということになり、JIN（国際緊急救援NGO合同委員会）としては資金提供、メケレでの医療状況、衛生教育の実態などについて情報交換するという形になりました。

## エチオピア伝統医療を知りたかった

ティグレイ女性協会による衛生教育の方法ですが、経験豊かなナースが一名中心となっており、政府のつくったテキストをもとに、ティグレイ語に翻訳。地元の女性たちに水の



衛生、母子保健の教育を行っています。  
テイグレイ州においては、Mother Child-  
rens Health Care および妊娠チェックは、  
地元のヘルスセンターまたは病院が行って  
いるのですが、実際には自宅出産が多いと  
ころから、言うなれば「テイグレイ伝統出産ア  
シスタント」と言うべきような、自宅出産時  
の処置を教える人々がいます。

彼女たちは数多くの出産に立ち合っており、  
経験的に多くを知っている年長者です。正式  
に西洋医学を学んだことはありませんが、簡  
単に医学知識を学んでいます。

たとえば、臍の緒を結紮切断するハサミな  
どの煮沸消毒の方法などはよく人々の間に浸  
透しています。

また、村の指導的役割を担う組織「バイト  
ウ」の中から人を選んで、男性もヘルス・エ  
ージェントとして一か月程度の衛生教育を学  
んでもらい、養成しているのですが、これは  
無給の役目であり、彼らの本業があるために  
残念ながら根づかないのが実情のようです。

今回、私個人としてはエチオピアの伝統的  
医療について、もしそれを生かしているの  
であればぜひ知りたいと思ったのですが、医療  
スタッフには、そうといったものは非科学的と  
否定しがちな雰囲気があるようでした。

しかし日本にも鍼灸や漢方薬があり、西洋  
医学と東洋医学が社会に共存している状況が  
あることを話すと、「エチオピアも伝統的なも  
のをすべて否定しているのではない」と話し  
てくれました。

たとえば先の「テイグレイ伝統出産アシス  
タント」のように受け継がれてきたものの価  
値を認めているところもあり、またハーブメ  
ディシンのようなものの価値を認めようとい  
う動きも出てきているとのことでした。

エチオピアでも、ドクター、ナースの養成  
には力を入れているようですが、まだまだそ  
の数はとても少ないようです。

ドクターは六年制の医学部、ナースの養成

は全寮制の看護学校で二年半、そのアシスタ  
ントの養成には一年半かけているとのこと  
です。

メケレを去る前日、ささやかな日本文化の  
夕べとして、私はRESTのゲストハウスに  
女性協会の女性たち、メケレにきていたアメ  
リカ人文化人類学者、そして近くの子どもた  
ちも招いて生け花を披露しました(写真)。

## 海外活動をめざすナースへ

私が医療に従事している日本人々と話を  
するたびに感じることは、ほとんどの人がチ  
ヤンスさえあればボランティア活動、海外で  
の医療体験をしたいと思っているにもかかわらず、その反面、気軽に参加するのは状況が  
許さないと思っているということです。

たしかに長期にわたる活動となれば、大き  
な決断がいります。しかし本人の希望と、周  
囲の諸々の条件の折り合う接点にチャンスを探し、見つけることは、そう難しいことでは  
ないと私は思います。

たとえどんなに短期間でも、自分に合った  
スタイルのチャンスを見つけ、マスメディア  
を通してだけではない、実態、実情をその目  
で見、体験していただくことをお薦めします。

たとえ同じ体験をしても、各個人がそこか  
ら受ける感じ、芽生える問題意識、そして社  
会や背景を鋭く見通す視点といったものは違  
います。

そうした人々が増えるにつれ、医療の世界  
の意識も、より発展し、成熟していくのでは  
ないかと思ひ、期待しています。